



大船渡だより

ワカメの漁業支援

今回は、大船渡ベースの活動の1つである漁業支援についてです。

大船渡市は、水産業の街です！養殖業では、ワカメ・コンブ・カキ・ホタテ・ホヤを養殖しています。漁師さんが獲ってくる魚の水揚げは時期によって異なりますが、9～11月に水揚げされるサンマの漁獲高は全国2位です。それに伴い水産加工の会社も多くあります。漁業は、東日本大震災で大きな被害に見舞われました。海の近くで生活していたので家を流された方も多くいらっしゃいます。船・作業場・資材など、漁業にとって必要なものはすべて流されてしまいました。特に、養殖業の人たちは全てのものが無くなってしまいました。養殖業は、出荷できるようになるまで最低で2～4年の年月がかかります。その間、収入がない日々が続いていました。

私たちがお手伝いさせて頂いているワカメの養殖は、3月～4月の時期に限定された活動です。ワカメの1番おいしい時期が今で、この時期のワカメを塩蔵加工して出荷できるようにしています。漁師さんは午前3時から収穫に出かけ、午後6時まで毎日休みなしで作業されます。塩蔵ワカメを作る工程も、何段階もの作業があります。私たちは、その中の「ワカメを揃える」「ワカメの両端を切る」という2つの作業を手伝わせて頂きました。「ワカメを揃える」作業は、塩蔵加工の際に絡まってしまっているワカメをほぐして並べていく作業です。「ワカメの両端を切る」作業は、ワカメの先端部と末端部の汚れている所と商品にならない箇所を切り取る作業です。私たちが揃えたり切ったりした後のワカメの芯を地元のお姉さんたちが「芯抜き」という作業でワカメの芯を抜き葉の部分のみにしていきます。この「芯抜き」は、商品のランクに関わる事なので私たちは見守るだけです。お姉さんたちは、お話をしながらもきれいに抜き取っていました。きれいに取られたワカメの葉は、U字になっていました。

地元の漁師さんたちと一緒にの作業で、いろいろなことを教えて頂き、差し入れを頂きました。メカブを茹でただけで丸かじりするという貴重な体験もさせて頂きました。漁師の皆様のご生活に直結したお手伝いをさせて頂き感謝でした。来年も続きそうです。ボランティアの皆様のお越しをお待ちしております。



桜まつりと映画上映会

「被災者に希望を与える映画を届けたい」との思いから、内陸の方々が被災地以外で上映会を開催し、1年間かけて資金を集め、4月27日にリアスホールにて映画上映会と桜まつりを開催しました。大船渡ベースも会場の設営から片づけまでお手伝いさせて頂きました。

屋内イベントとして「映画上映会」、屋外イベントとして「桜まつり」の開催です。映画上映会は、ドキュメンタリー映画「僕のうしろに道はできる」が無料上映されました。内容は、脳幹出血で倒れて意識不明になり、一生体が動かなくなるだろうと思われた方が、作者との2人3脚の日々の中で常識を超えた回復をするというお話です。回復に向かう中で、生きるってどういうこと？幸せて何？と自分と向き合いながら立ち上がっていくまでの姿を取り上げた作品でした。映画に来場された方の中には、1時間前から来られた方もいて楽しみにされていた様子でした。

私たちがメインでお手伝いをした屋外イベントの「桜まつり」は、リアスホールの駐車場を会場にした出店とステージのイベントでした。出店には、花巻から駆けつけたお店もあり、来場された方のお腹を満たしていました。ステージでは、地元のシンガーソングライターを始め、ゆるキャラも勢揃いでした。大船渡市の公式ゆるキャラ「おおふなトン」、大船渡市非公式ゆるキャラ「サンマクロス」、栗石町ゆるキャラ「しずくちゃん」、さんざ踊りゆるキャラ「さっこちゃん」、岩手県のゆるキャラ わんこきょうだいから「うにっち」の計5体のゆるキャラが集い、ゆるリンピックを開催しました。結果は、「おおふなトン」の優勝で終わりました。さすが、地元のゆるキャラです。人気も1番でした。

ボランティアの人は、会場のテント張り・駐車場案内・会場内の見回り・各ブースの販売補助をしました。午前8時半から午後4時過ぎまで1日外での作業で、ボランティアさんはくたくたに疲れていました。

こういうイベントは、震災で以前に住んでいた場所から離れた人達が出会う場となる良い機会なのでお手伝いさせて頂いています。この日も来場者は500人を超えていたと思います。会場からは「久しぶり〜。どこに移ったの?」という声も聞こえていました。



希望のかけ橋

東日本大震災から3年を経て、大規模造成工事が動き出しました。陸前高田市気仙町今泉地区の宅地などの整備で、高さ120mの山を45mまで削るために発生する大量の土砂を気仙川対岸に運ぶベルトコンベヤーが本格稼働を始めました。1日の運搬量は10tダンプカー4000台分。ダンプカーだけでは約10年かかるところをベルトコンベヤーを活用して大幅短縮し、2015年5月には搬出完了を見込んでいます。そして来月7月には総事業費約120億円をかけた全長約3キロが完成する予定です。



大船渡のシンボルであるセメント工場の煙突

震災から3年2ヶ月...



仮設の商店街

大船渡市の元中心地の様子 (2014/05/11 撮影)

キャリアチャレンジデイ

カリタス大船渡ベースでは震災後から大船渡市で毎年開催されている「キャリアチャレンジデイ」をボランティアスタッフとして支援しています。今年も7月11日に大船渡市民文化会館「リアスホール」を会場に開催される予定で、現在着々とその準備が進められています。その活動をご紹介します。大阪にある(株)キャリアリンクという会社が事務局となって、被災地の学校や子どもたちを応援する「学校スマイル応援プロジェクト」が震災直後に立ち上げられました。大船渡市と陸前高田市の小・中学校の運動会の開催を支援することから始まりました。大船渡市では、地域経済の復興が道半ばで、例年中学2年生が実施していた「職場体験学習」もできない状況でした。そこで「学校スマイル応援プロジェクト」では、大船渡市の全中学校8校の2年生を対象に、「職場体験学習」に代わる取り組みとして、賛同する企業・団体とともに大船渡市教育委員会と連携して「キャリアチャレンジデイ」を開催することにしました。市内の全中学2年生が「リアスホール」に集まり、義務教育初の民間人校長として知られる藤原和博氏による[よのなか]科スペシャル授業を受け、会場内に設けられた日本を代表する有名企業や地元企業のブースをまわり、普段は聞くことの出来ない自分の興味のある職種の方々から直接話を聞いて、「職業の役割と、それに必要な能力」について考えるのです。生徒たちはこの日のために担任の先生方とともに事前学習に取り組み、当日は積極的にインタビューして貴重なお話を目撃させるのです。私たちは会場の設営や当日の生徒の誘導などでこのイベントを支えます。



ボランティア登録者数 男性410人、女性703人：合計1113人

4月16日～5月15日 ボランティア数 男性：11名、女性：22名

4月・5月 地域の変化 活動紹介

4月

- 17日：大船渡アクションネットワーク会議
- 20日：AKBコンサート 盛駅
- 21日：地ノ森仮設 足湯・手もみ
- 23日：大船渡市魚市場完成（27日から一般公開）
- 25日：吉浜トンネル貫通（27年度から使用可能に）
- 27日：桜まつり
- 29日：個人依頼 仮設住宅⇒災害復興公営住宅 引っ越し補助

5月

- 2日：個人依頼 鹿対策用柵作り
- 3日：盛町 式年大祭 大名行列・田茂山地区 山車ひき 参加
- 4日：田茂山地区 山車ひき
- 5日：基石海岸観光まつり
- 6日：カリタスこどもの日（食事会と映画上映会）
- 8日：大船渡アクションネットワーク会議

カリタス大船渡ベース 地ノ森いこいの家

電話・FAX：0192-47-4737（9：00～18：00）

急用時：080-2440-5610

- 〒022-0002 岩手県大船渡市大船渡町地ノ森43-2
- Eメール：ofunatobase@gmail.com
- ブログURL：http://ameblo.jp/ofunatobase/